

めぐみイエス・キリスト教会

2022年4月24日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第605号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌316「御言葉なる」 p. 500

【交読文】 No.18 詩篇第50篇 p. 892

【賛美Ⅱ】 新聖歌101「イエスよ十字架に」 p. 141

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.2「ビジョン」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章24節～29節(新約p. 228下段)

【礼拝説教】 《復活から一週間後》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書20章24節～29節)

20:24 十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。

20:25 そこで、他の弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。

20:26 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

20:27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたは私を見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

●ポイント1. 御使いの伝言とは？

※マルコの福音書16章6節～7節抜粋「女たちへの伝言」 (新約p.104)

16:6 「驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。

16:7 さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』」

●ポイント2. 「週の初めの日の夕方」のできごととは？

※ヨハネの福音書20章19節～20節「戸に鍵がかけられて」 (新約p.228)

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

●ポイント3. 主イエスに代わるもう一人の助け主とは？

※ヨハネの福音書14章16節～17節「主イエスの約束から」 (新約p.214)

14:16「そして私が父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。

14:17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」

◎先週の礼拝メッセージの概要【主イエスの復活】

《今日はイースターです。主イエスは弟子たちに、三度受難予告をなされ、また三日目によみがえることも預言されていました。この預言を、ユダヤ人の指導者たちも耳にしていたのです。それゆえ、彼らは安息日にもかかわらず、総督ピラトの所に行き、ローマ兵の見張りを墓に置くことを願い出しました。何と彼らの方が、主イエスの復活を信じていたのです。

さて、女たちが墓について見ると、すでに四人のローマ兵の見張りは、逃げ出しており、石のふたは転がされていました。彼女たちは墓の中に入りますが、主イエスの御からだは見当たりません。彼女たちが途方に暮れていますと、そこに二人の御使いが現われます。

「あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられた頃、お話しになったことを思い出さない。人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。」

マタイの福音書では、御使いは、さらに主イエスの伝言を伝えます。「急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。」

彼女たちは、急いで弟子たちに伝えます。しかし弟子たちには、この話はたわごとのように思えたので、彼女たちを信じなかったのです。

ヨハネは七つの特別な意味を持つ奇跡を福音書に書き記しました。その七つ目が「ラザロのよみがえり」です。この奇跡は、紛れもなく主イエスがよみがえられることの予兆でありひな形です。主イエスは、私たちの罪の身代わりとして十字架にかかられました。私たちが受けるべき裁きを一身に受けて下さったのです。そして三日目によみがえられたのです。使徒パウロはこのように証しています。『キリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。』と。主は今も生きておられます。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は午前10時から行ないます。また5月8日(日)の第二礼拝は、時間変更して午後2時からとなります。ご注意ください。